



photo:yashiro photo office

# 2016

*date* 2016.12.11(sun)-12/23(fri)

*theme* 近作展 2016

## *architects*

門脇秀享 (ホワイトスペースカドワキ 一級建築士事務所)  
 首藤顕道 (首藤顕道建築設計事務所)  
 高橋洋一 (㈱高橋洋一建築設計事務所)  
 渡部容子 (WDA | 渡部建築設計事務所)  
 山崎真司 (一級建築士事務所 Yama Design)  
 足立心也 (足立心也建築設計事務所)  
 松田周作 (松田周作建築設計事務所)  
 矢橋 徹 (矢橋徹建築設計事務所)  
 田中悠希 + 榎本亮祐 (YRAD)  
 阿南未来 (㈱エイチエム建築企画室)  
 池辺慶太 (DATT)  
 三木万裕子 + 佐藤 圭 (三木佐藤アーキ)  
 尾垣俊夫 (尾垣俊夫建築設計)  
 中野晋治 (中野晋治建築研究所)  
 菊池 甫 (oohk | 菊池甫一級建築士事務所)  
 東郷哲史 (bricoleur)  
 山本展久 (山本展久アトリエ 荒川企画室)

17 組 19 名

## *workshop*

ランプシェードを作ろう

## *other*

PPS4 インスタレーション

## 2016年 U\_40建築家展について

「近作展」という名の通り、日常の仕事を見ていただく原点回帰の展示として、例年凝った演出をしていた会場構成にはなるべく手間を掛けず、その分個々の展示内容のクオリティーを上げようというところからスタートしました。

手間を掛けずにできる会場構成として考えたのがアートプラザにあるテーブルを使って何かできないかということでした。テーブルを4つ組み合わせてできる穴のあいた正方形はアートプラザのロゴにも使われているように、梁の断面形状をモチーフとしています。

正方形のブースが規則正しく並んでいる様は、アートホールの空間とも相性がよいのではないかと考えています。我々若い世代の建築家が磯崎建築で展示をするということから磯崎さんの空間へのオマージュという意味も込めています。



この年は、4月に熊本地震が発生。OPAM(大分県立美術館)の設計者でもある建築家の坂茂さんが避難所の仮設間仕切り(PPS4)として使用した紙管と布が大量にあまっていて、その二次利用の方法を色々と考えているという話しを聞き、U\_40としても何かできることがあるのではないかと出展者で話し合い、16ブースのうち1ブースをこの紙管と布を使用した熊本との連携展示ブース(紙管インスタレーション)として設けることにしました。

個々のブースで使用しているテーブルクロスと脚もこの布と紙管でできています。

